



ホーム>世界>南アジア・インド オリッサ州 報告3

一緒に歩もう!一緒に変わろう!「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう!

プログラム内容

報告1  
2011年2月

報告2  
2011年12月

報告3  
2012年2月

報告4  
2012年7月

報告5  
2012年後期



現在

## 2012年1月25日 簡易教室完成!

前回のレポートでお知らせしたように、ソメシュワール氏が寄贈した土地に簡易教室建築が進んだ。この建築はすべて村人たちのボランティア活動でまかなわれた。壁にする竹を持ち寄り、切り裂き、編み上げた。また、女性自助グループのメンバーたちは、壁に特別の泥を塗りこむ作業に携わった。この作業は想像以上に時間を必要とした。

特に困難を極めたのが、日本の皆さまの支援で購入、町からトラックで運搬できた教室の屋根になるトタン板20枚を徒歩で運ぶことだった。背中に担いで1時間ほど徒歩で山道を登らなければならなかった!雨や嵐にも見舞われ、参加した村人たちには大変な作業となった。



教室ができて一番、喜んでいるのはもちろん、子供たちだ。自分たちの教室が出来上がっていく状況を見ながら、そこで学ぶ日をどれほど、楽しみにしていたことか!彼らもできることを手伝った。学校が終わったあとの午後には、この教室は女性の自助グループも集まりに使うようになり、女性たちにもよりどころの場所となる。村民の話合いの場として、保護者会の場として、この教室はこれから多目的に用いられるのだ。教室は学校以上のものになった。外部からの最低限の支援を用い、村人たちが協力して子どもたちの学びの場、そして、村人自身がさまざまな目的のために集まる場所を作り上げることができた。



## 村民の声

村人の一人、アナンタさんはこう感謝を伝えている。「私たちの村に子どもたちが通う教室ができたことは素晴らしい。このことを通して子どもたちだけでなく、今まで学校に通ったことがなかった大人や年寄りも、教育の大切さを実感するようになっていく。何も知らなくても当たり前、という暗闇だった村の暮らしに、光が照らされたように感じる。これからもぜひ、私たちがこうして格闘していることを覚え続けて欲しい。」

## エベネゼル・ファンデーション代表、ナヤクさんの感謝

エベネゼル・ファンデーションの代表、ナヤクさんはカラハンディ郡の辺地にあるこのような村がより良くなるようにと祈り、経済的支援をしてくださった日本の方々から感謝を伝えている。「皆さんのような方々とつながることができて、本当にうれしく誇りに思います。」

[Share](#) |

[ホーム](#) [活動内容](#) [FVIの特徴](#) [参加する](#) [寄付・献金](#) [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

